

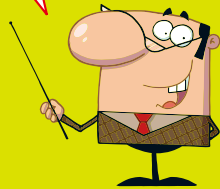
投資を効率的に

取引の流れ



上図は、取引および証拠金の流れを表したものです。証拠金はすべて JCCH において分別管理されるので安心です。なお、SPAN® で計算される証拠金額は最低額であり、実際に請求される額はこれを上回ることがあります。

SPAN® に基づいた
証拠金計算は合理的で効率がよく、
国内外での採用実績も高い、
証拠金システムなんです。



ご注意

SPAN® (Standard Portfolio ANalysis of Risk) は、シカゴ・マーカンタイル取引所 (以下、CME) に登録された商標です。本資料における使用は許諾されていますが、CME はいかなる者もしくは団体による SPAN® の利用について、一切の責任を負いません。なお、本資料の記載内容につきましては、CME が公表する内容を優先し、これらは予告なしに変更することがありますので、ご注意ください。

SPAN® に基づいた証拠金制度の概要

SPAN® に基づく証拠金額は、相殺可能なリスクを差し引いた上で翌営業日中に発生する可能性のある損失額が計算され、その金額を証拠金として預けます。SPAN® が特徴的なのは、それを個々の建玉ではなく、保有する建玉 (ポートフォリオ) 全体で算出する点です。そのため、組み合わせによっては、証拠金の減殺効果が見込まれるのです。

また、相場変動により計算上の損金 (値洗損金) が発生した場合は現金で日々清算するほか、商品取引員との取り決めにより、委託者は計算上の益金 (値洗益金) の返戻を受けることもできます。ただし、日々の証拠金計算の結果、預託した証拠金のうち現金で不足が生じた場合には、証拠金を現金で預託する必要がある点は注意が必要です。



株式会社日本商品清算機構

(株)日本商品清算機構 (JCCH=Japan Commodity Clearing House)

JCCH は、SPAN® に基づく証拠金計算においては、計算の基礎となる数値や変数を算出します。

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町 9-4

TEL : 03-5847-7686

e-mail : span@jcch.co.jp

ホームページ : <http://www.jcch.co.jp>

商品先物取引におけるリスクベースの証拠金

SPAN® 証拠金 の手引き

SPAN® は、
米国のシカゴ・マーカンタイル取引所が
開発した証拠金の計算方法で、
世界各地の主要取引所で広く採用されている、
証拠金計算の国際標準です。



商品先物取引の信頼性と利便性向上のために——

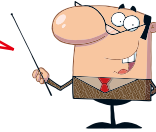


株式会社日本商品清算機構

SPAN®の採用で 商品先物取引がもっと 身近で、わかりやすく

SPAN®とは？

SPAN®は、
同一限月内の「売り」と「買い」だけでなく、
以下の相殺が可能となる
証拠金計算方法です。

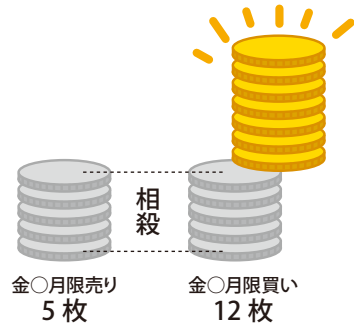


- ・同一商品の異なる限月間のポジションのリスク
- ・価格変動に相関性のある商品間のリスク
- ・先物とオプションのリスク

SPAN®の考え方

SPAN®では下記の考え方にに基づきリスク相殺を行います。

<同一限月の「売り」と「買い」の建玉を相殺>



この場合、売り5枚と
買い5枚が相殺され、
「12枚-5枚=7枚」となり、
この結果、この限月の
ネット・ポジションは
「買い7枚」という計算に
なるわけです。



上記は同一限月における「売り」と「買い」の計算例ですが、同様に、同一商品の異なる限月間での建玉や、原油とガソリンなど価格変動に相関のある商品のリスクは相殺できます。この結果、ポートフォリオ全体のリスクが軽減される場合には、これまでの証拠金の計算に比べて証拠金額が減額されます。

SPAN®に基づく証拠金の計算例

では、実際にSPAN®による証拠金の計算例を見てみましょう。



これは一例で、
実際の証拠金は取引の組み合わせに
応じて変化します。

CASE STUDY

一商品の複数限月に渡る ポートフォリオの場合

前提：委託者は以下の建玉を保有

- 7月限 1枚売り 3枚買い（ネット・ポジション^{※3} 2枚買い）
- 9月限 2枚売り 1枚買い（ネット・ポジション^{※3} 1枚売り）
- 総建玉数：7枚

ポートフォリオ		7月限		9月限	
		売	買	売	買
		1	3	2	1
ネット・ポジション ^{※3}		-	2	1	-
限月ネット・ポジション ^{※3}		-	1	-	-
スプレッド数 ^{※5}		-	1	-	-

同一商品の同一限月や異限月に売り買いのポジションを持つことは、これに伴うリスクを十分理解し、取引する必要があります。

プライス・スキャンレンジ^{※1}：60,000円
限月ネット・ポジション^{※3}：1
60,000円 × 1 = 60,000円
商品内スプレッド割増額^{※2}：31,500円
スプレッド数^{※5}：1
31,500円 × 1枚 = 31,500円
<SPAN® 証拠金額>
60,000円 × 1 + 31,500円 × 1 = 91,500円

かつての
証拠金制度で
1枚あたりの証拠金額が
60,000円であれば、
このケースの場合、
計420,000円の
証拠金が必要でした。



もちろんSPAN®による証拠金計算であっても、すべての取引で証拠金の減額効果が生じるわけではありません。例えば、上記前提条件で7月限の3枚買いだけだとすれば、証拠金は180,000円（60,000 × 3）となり、リスク相殺による証拠金の減額はありません。

上記例では、リスクが相殺されて証拠金は減額されますが、この後の取引でポートフォリオに変更があった場合は証拠金額が変更され、証拠金額が増大することもあります。

KEYWORD

- ※1 **プライス・スキャンレンジ**…各商品の価格変動リスクをカバーする値としてJCCHが算出（または設定）する数値
- ※2 **商品内スプレッド割増額**…スプレッド取引の場合において各商品の限月間の価格変動の差により生じるリスクをカバーするためにJCCHが算出（または設定）する数値
- ※3 **ネット・ポジション**…対応する売建玉と買建玉との相殺後に残るポジション（限月内／商品内）
- ※4 **スプレッド**…買いポジションと異なる限月の売りポジションの組合せのこと
- ※5 **スプレッド数**…商品内スプレッド割増額の対象となる限月間のスプレッド数